

収穫前日まで  
使用可能!

# ベフラン<sup>®</sup> 液剤25

イミノクタジン酢酸塩

## 特長

- 1.優れた予防効果と残効性。
- 2.緑かび病、青かび病に優れた効果。
- 3.黒腐病に優れた効果。
- 4.白かび病にも有効。
- 5.果実の汚れが少なく、光センサー選果機に対応。
- 6.他剤との作用機作が異なるため、  
各種薬剤耐性菌にも有効。

**みかん・柑橘の  
貯蔵病害・果実腐敗  
防除に!**



## ■適用病害と使用方法

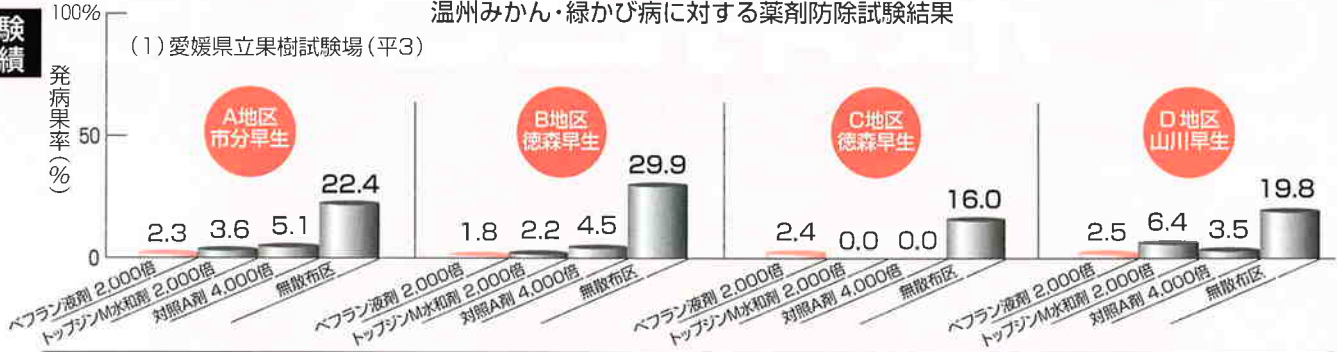
\*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤及びイミノクタジンを含む農薬の総使用回数制限を示す。

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用時期*	総使用回数*		使用方法
				本剤	イミノクタジン	
みかん	貯蔵病害 (青かび病、緑かび病)	2,000~3,000	前日	3回	3回	散布
	貯蔵病害 (黒腐病、白かび病)	2,000				
みかん以外の かんきつ類	貯蔵病害 (青かび病、緑かび病)	2,000~3,000		2回	2回	
	貯蔵病害 (黒腐病、白かび病)	2,000				

## 試験成績

### 温州みかん・緑かび病に対する薬剤防除試験結果

(1) 愛媛県立果樹試験場(平3)



(2) 佐賀県果樹試験場(平11)

付傷果実における累積腐敗果率(%)の推移



○散布日から収穫日までの降雨量: 123mm

◎品 種: 上野早生(極早生)・8年生

◎散布日: 9/22

◎調査日: 10/19, 26, 11/2, 9

◎試験方法: 収穫果実を5mの坂道に転がして付傷処理し、ポリ袋に入れ経時的に腐敗果を調査

### 薬液調製上の注意

- 他剤と混用する場合  
他剤を希釈・調製後に、ベフラン液剤を加えてください。
- 石灰硫黄合剤と混用する場合  
ベフラン液剤を希釈・調製後に、よくかき混ぜながら石灰硫黄合剤を加えてください。

### ⚠️効果・薬害等の注意

- イミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数範囲内で使用する。
- ホルダー液とは混用しない。(沈殿)
- かんきつ等の施設栽培で果実の着色終了前に使用する場合、果実に着色むらを生じるおそれがあるので、降雨時などの極端な多湿条件下での散布はさける。
- 麦類の種子消毒の場合、吹き付け処理は専用の種子消毒機を使用し、薬液が種子に均一に付着するようにする。また塗抹処理の場合は適当な容器内で種子をかき混ぜながら薬液を滴下するなどして、種子に均一に薬液を付着させる。
- りんごに使用する場合、以下のことに注意する。
  - 芽出し2週間すぎから落花後40日ごろまでは、さび果、花ぞうでの軽微な不整葉を生ずることがあるので、この時期の散布はさける。
  - モニリア病防除に使用する場合、この時期の西洋なしには薬害を生ずるおそれがあるので、近接している場合にはかからないように注意する。
  - 紫紋羽病防除に使用する場合、苗木発芽後の処理では展葉を阻害する傾向があるので、発芽後の処理はさける。また、苗木根部に付着した土壌をできるだけ除去したのちに処理する。
- アスパラガスに使用する場合、次のことに留意する。
  - 若茎に薬液が付着すると茎が曲がることがあるので留意する。なお、このことによる林養成への影響はみられていない。
  - 夏期高温時の散布では針葉(擬葉)が白化することがあるので、使用濃度を守り、朝夕に散布する。
- 日本なし・もも・つめ等の果樹、いんげん、きゅうり、あぶらな科作物、まめ類には、薬害を生ずることがあるので、かからないように注意して散布する。(葉の薬斑)
- ぶどう晚腐病(休眠期散布)の防除の際、500倍では効果が劣ることがあるので、多発が予想される場合には250倍で使用する。ハウス栽培(特に加温ハウス)では、果実に薬斑を生じるおそれがあるので、散布はさける。
- 西洋なしに使用する場合、品種ル・レクチェではさび果を生じるので使用しない。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。
- 使用方法などを遵守する。特に初めて使用する場合は、普及指導センター・病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### ⚠️安全使用上の注意

- 医薬外用劇物。取り扱いには十分注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けさせる。使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当てを受ける。
- 眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時及び種子消毒の際には保護メガネを着用して、薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当てを受ける。
- 皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。(刺激性)
- 使用の際は、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用する。作業後は直ちに手足・顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに、衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服などは、他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は、取り扱いに十分注意する。
- 蚕に対して毒性があるので、桑にはかからないように注意して散布する。

保管: 密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な所。カギをかける。盗難・紛失の際は、警察に届け出る。

使用量に合わせ薬液を調製し、使い切る。空容器は園場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理する。洗浄水はタンクに入れる。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

※本資料は2005年9月現在の登録内容に基づいています。

